

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-137	A-152	15-042 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Associations of lifetime abstention and past and current alcohol use with late-life mental health: a propensity score analysis. 飲酒歴と高齢期の精神疾患について；傾向スコア解析		
執筆者		
Martí CN, Choi NG, DiNitto DM, Choi BY.		
掲載誌		
Drug Alcohol Depend. 2015 Apr 1;149:245-51. doi: 10.1016/j.drugalcdep.2015.02.008.		
キーワード		PMID
飲酒、うつ、不安障害、自殺念慮		25725932
要 旨		
<p>目的： 飲酒が身体に与える影響は多く報告されているが、飲酒歴が高齢期の精神に与える影響に関する報告は少ない。本研究は 65 歳以上を対象に飲酒歴と精神疾患との関係を検討した。</p> <p>方法： 2008-2012 年の National Survey on Drug Use and Health のデータを用いた。飲酒歴は生涯非飲酒者、過去飲酒者、大量飲酒者、非大量飲酒者に分けた。精神疾患は生涯のうつ、不安障害、過去 1 年のうつ、不安障害、過去 1 年間の自殺念慮である。複数の共変量によるバイアスを最小化するために、boosted model により propensity score を算出した。精神疾患を従属変数としてロジスティック回帰分析を行った。</p> <p>結果： 飲酒歴の 4 群と過去 1 年のうつは関連が無かった。しかし、非大量飲酒群に比べて、生涯非飲酒群は生涯のうつのリスク (オッズ比) が 60%以下で (OR = 0.39, 95% CI = 0.23-0.68, p = .001)、生涯の不安障害のオッズ比は約半分 (OR = 0.55, 95% CI = 0.38-0.79, p = .002) であった。非大量飲酒群に比べて、過去飲酒群は過去 1 年の自殺念慮のオッズ比が最も高かった (OR = 2.29, 95% CI = 1.45-3.62, p < .001)。</p> <p>結論： 非大量飲酒群に比べて、生涯非飲酒群は有意に生涯の精神状態が良く、過去飲酒群は過去 1 年間の精神状態が最も悪かった。生涯非飲酒者と過去飲酒者は特性が大きく異なるので、研究者はこの違いを峻別すべきである。</p>		